

「クラシノソコアゲ応援団 2017 街頭行動」 第 14 弾

復興・創生へ、そして暮らしの底上げでふくしまに活力を！

～子どもの貧困率の高さが一層深刻に～



街頭行動も14回目を数える

連合福島は、一昨年 12 月にクラシノソコアゲ応援団を組織し、この間毎月一回継続的な取り組みを展開しており、この程6月22日(木) 17時～福島市内中合ツイン広場において第14弾の街頭行動を実施した。尚、今回も連合福島はもとより県労福協との共催で行動を共にした。



連帯の挨拶をする福島市議会
会派社民党・護憲連合の
羽田房男福島市議会議員

冒頭、クラシノソコアゲ応援団の立場で加藤光一事務局長は「政府では働き方改革や長時間労働の是正などが提起されているが、現実には非正規いわゆる不安定雇用で働く方が拡大をしている。そして、その多くが低所得にあり将来への不安感が増幅している。また、子どもの貧困率の高さが示すように格差・貧困は一層深刻化し、とりわけ教育機会の格差が将来の日本の成長の妨げになるなど懸念すべき事態にある。福島における人材不足も顕著であり、人材流出を防ぎ確保・定着させることが求められる。福島復興そして、人口減少社会における地方創生は喫緊の課題であり、私たち連合福島も注視し、最大限の努力をしていきたい。今次春闘において、厳しいな



挨拶する加藤光一事務局長

がらも各労働組合は精一杯がんばっており、一定の処遇改善が見られている。この流れを、労働組合の無い職場で働く方や最低賃金アップにより低所得層の暮らしの底上げにつなげていきたい。ともにがんばりましょう！」と挨拶した。続いて、福島市議会会派の社民党・護憲連合から羽田房男市



給付型奨学金制度の課題と
拡充についてアピールする
鈴木茂県労福協事務局長



最低賃金の引上げを訴える遠藤
徳雄副事務局長

議より連帯激励の挨拶を受けた後、県労福協・鈴木 茂事務局長次長から奨学金制度の課題と拡充に向けてアピールし、連合福島・遠藤徳雄副事務局長からは最低賃金の課題と引き上げの必要性についてアピールし、県民の理解と共有を求めた。最後に、県北地域連合の紺野淳事務局長の締めでクラシノソコアゲ実現に向け、街頭での訴えを終了した。



市民の皆さんにティッシュを配りPR